

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

22／23年のシーズンが後半戦に突入しているのが欧州の障害界で、関係者やファンの目はこの時季、3月14日から17日まで英国のチエルトナム競馬場で開催される「チエルトナムフェスティヴァル」に注がれている。その2日目のメイイン競走に組まれた、スティープルチエイス(芝15F)と線のクライマックスとなるG1クライーンマザー・チャンピオンチエイス(芝15F)で、大本命と目されているのがエナガミーンである。

仏国でクロスカントリー・チエイスを走り勝ち馬となつたオリナイトの2番仔として、14年6月13日に生まれたのがエナガミーンだ。3歳6月にタタソールズが愛国で催したダービーセールに上場され、馬主のトム・レイシー氏が5万ユーロ(当時のレートで約643万円)で購買。レイシー氏の所有馬として、英國南部のウイルトシャーにあるラーケヒル競馬場で行われたポイントトゥポイント競走(芝24F)に出走し、ここを3.1/2馬身差で勝利したところ、そのレース振りに目を付けたのが、愛国のトップトレーナーであるワイ

ドンハムレッド)を、今月のこのコラムの主役として紹介したい。

22／23年のシーズンが後半戦に突入しているのが欧州の障害界で、関係者やファンの目はこの時季、3月14日から17日まで英国のチエルトナム競馬場で開催される「チエルトナムフェスティヴァル」に注がれている。その2日目のメイイン競走に組まれた、スティープルチエイス(芝15F)と線のクライマックスとなるG1クライーンマザー・チャンピオンチエイス(芝15F)で、大本命と目されているのがエナガミーンである。

仏国でクロスカントリー・チエイスを走り勝ち馬となつたオリナイトの2番仔として、14年6月13日に生まれたのがエナガミーンだ。3歳6月にタタソールズが愛国で催したダービーセールに上場され、馬主のトム・レイシー氏が5万ユーロ(当時のレートで約643万円)で購買。レイシー氏の所有馬として、英國南部のウイ

ルトロワー(芝17F)、16馬身差で制したパンチエスタウンのG1ライアンエアノーヴィスチエイス(芝16F)を含めて無敗の4連勝をマーク。障害界の新興勢力として注目される存在となった。

翌21／22年シーズンも4戦し、2戦目となつたアスコットのG2クラレンスハウスチエイス(芝16F)でシミュキンの2着に敗れ、障害デビューから継続していき連勝が“6”でストップ。だが、続いて出走したチエルトナムのG1クライーンマザー・チャンピオンチエイスを8.1/2馬身差で制し、この路線の頂点に昇り詰めることにな

り、マリンズ師で、同師がエナガミーンを庭先取引で購買。マリンズ師のクライアントの一人で、G1ステイヤーズハーフド(芝23F)2連勝馬ペンヒルなどの馬主として知られるトニー・ブルーム氏の所有馬となつて、障害デビューすることになった。

ナショナルハントフラットを2戦した後、20年3月にゴウランパークのメイドンハーフド(芝16F)に出走。ここを19馬身差で制し障害馬として初勝利をあげると、翌シーズンから障害の難度も高く飛越数も多いスティープルチエイスに転進。20／21年シーズンは4戦し、10馬身差で制したレバーブラウンのG1アイリッシュアーチルトロワー(芝17F)、16馬身差で制したパンチエスタウンのG1ライアンエアノーヴィスチエイス(芝16F)を含めて無敗の4連勝をマーク。障害界の新興勢力として注目される存在となった。

翌21／22年シーズンも4戦し、2戦目となつたアスコットのG2クラレンスハウスチエイス(芝16F)でシミュキンの2着に敗れ、障害デビューから継続していき連勝が“6”でストップ。だが、続いて出走したチエルトナムのG1クライーンマザー・チャンピオンチエイス(芝16F)で、73倍というオッズを掲げている。G1クライーンマザー・チャンピオンチエイス(3月15日)におけるエナガミーンのレース振りに、ぜひご注目いただきたい。